



歴史を感じる里

林野率9割をこす四万十町にも黒潮の香りのする集落がある。興津地区と今回散策した志和地区であり延々とした歴史がある。大昔から人が住んでいたとみられ、志和中学校校庭拡張工事の際石斧が出土している。

漁業として名の知れた地区ではあるが、志和川の山裾まで整備された農地が開けタバコ、ショウガ、ハウスではミカが栽培されている。漁業では漁に期待をこめ伊勢エビを捕る磯立て網の修繕に精をだしていた。この港、昔は仁井田郷のうち35か村、窪川郷17か村の年貢米1700石を納める米蔵が2つもあり、にぎやかな時もあった漁と農の地区である。



植え付けをまつタバコ栽培のほ場

泥棒さんも見つらうしやい

H20年から始まった四万十街道ひなまつりというイベントがあり、この地も志和会場として数軒の民家の皆さんが飾り付けをしている。口こみで広がるだろう。訪れた人が記帳するノートには町外の人のサインが多数あった。



民家に飾られていたヒナ人形

すごいと声をあげたのが手作り貨物船の模型。作者の川崎道夫さんにはお会いできなかったが、道案内をしてくれたおばあちゃんによると「新聞

にもテレビにも出たよ、設計図みたいな物は無いつく作ったと一見の価値ありである。それにしてもいつ何時、誰が来ても見られるような配慮、都会の人は外出の際玄

関には必ず鍵をかける。おひな様をめでの来る人には悪い人はおらんよーでしょうね。



手作り貨物船の模型

民話の里・伝説の里

珊瑚城哀話という話がある。黒田郡の乙女と志和の若い漁師との実らない恋の物語である。さてその黒田郡伝えるところによると今からおよそ1300年前太古白鳳の年、地がさけるかと思われる大地震があり志和沖一帯にあったとされる黒田郡は一瞬にして海底に沈没したとある。志和沖一里の所に志和礁という暗礁があるが、これが海中に陥落した黒田郡の山嶺であるという。それならばこの地志和も台地部と同じ標高であったであろう。志和は山の下なのに山野上さんという氏があるのもうなずける。

行列のできるお汁

志和のイベントで忘れてならないのが11月催されるこんぶ祭りである。海産物を中心にしたお祭り、特別に行列のできるのが伊勢エビのお汁。縦半分に割ったエビが殻ごと入っており、これはうまい。ぜひ一度、賞味あれ。

町の人口
(3月1日現在)

(男性) 9,563人
(女性) 10,701人
(計) 20,264人
(世帯数) 8,822世帯

平均年齢
(3月1日現在)

(男性) 49.1歳
(女性) 53.9歳
(全体) 51.6歳

四万十川流域の
水質状況
四万十川具岡地点

項目	単位	基準値	1月13日
水温		-	7.9
pH		6.5~8.5	7.4
BOD	mg/l	1.0以下	<0.5
SS	mg/l	25以下	<1
DO	mg/l	7.5以下	12.2
大腸菌群数	MPN/100ml	50以下	6.8

注意1 測定値は全て速報値です。注意2 基準値は年平均値を対象とした数値です。(国土交通省中村河川国道事務所提供)

●四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)